あかりだより

No.32

発行：2022 年８月　　発行者：社会福祉法人 あかりの家　　題字：田村　陽介

児童デイサービスあかりの家は 10 年目の節目に 児童療育支援センターあかり として新たにスタートします

児童デイサービス つぼみ 開設

児童デイサービス あかりの家を 児童デイサービス ふたば に改名

児童デイサービス つぼみ 開設

児童療育支援センターあかり

児童デイサービス つぼみが、令和４年４月に開設。併せて、児童デイサービス あかりの家を、**児童デイサービス ふたば**に改称。**児童療育支援センター あかり**として、２つの事業所を運営しています

児童療育支援センター あかりは、社会福祉法人あかりの家の児童期支援の専門機関として、**児童デイサービス つぼみ**と**児童デイサービス ふたば**の運営をとおして、子どもたちの未来に花を咲かせ、豊かな実を実らせることができるような支援を行っていきます。

児童デイサービス つぼみ

【放課後等デイサービス】
小集団療育（個別配慮）、小学生
- 社会自立、それに準ずる自立のための力をつける
- 自宅学習の仕方
  （学校での準備、自主的行動、家族の確認）
- 人とのコミュニケーション能力

【保育所等訪問】
- 集団生活における適応促進

児童デイサービス ふたば

【児童発達支援】
個別療育
- 身辺自立
- 対人意識、学習姿勢の獲得
- 行動障害の予防

【放課後等デイサービス】
個別療育（準個別）、中高校生
- 児童期の行動障害の出現防止
- 行動障害の軽減
- 社会適応できる力の獲得

ワークホーム高砂から独立 単独事業所に
納豆工房 なっとこちゃん

納豆工房 なっとこちゃんは、無事１周年を迎え、２年目も過ぎようとしています。令和４年１月から、ワークホーム高砂を離れ、単独事業所として稼働しています。

なっとこちゃんのブランドも定着してきて、新たな事業展開や送迎サービスなど、内外の充実を図りつつ、事業所としての位置を確実なものにしていこうと頑張っています。

「働きたい」を応援し続けていく

納豆工房 なっとこちゃん
施設長 長　谷　川　　博　信

今からおよそ３０年前、障害を持つ子の母が当時は報酬制度が十分でないグループホームの運営費の足しにと、はじめた納豆づくり。近年は制度も整い、一旦はその役目を終えた納豆づくりでしたが、ワークホーム高砂齋藤施設長が「納豆づくりを利用者の作業に」と引き継ぎ、現在の新作業所が完成したのが令和２年１０月１９日でした。この間、設備の充実はもとより、現在の主な取引先であるヤマダストアーとの取引開始や、福祉事業所や、保護者の皆さん、及び施設給食での活用等、現在の生産活動の基礎を築いていただきました。

納豆工房なっとこちゃんは令和４年１月から単独事業所として看板を上げ直しましたが、これまで納豆づくりに関わった利用者や職員の努力・創意工夫、応援してくださった関係者の皆さんには尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、かく言う私も短い期間ではありますが、納豆の製造と販売、広報に関わらせていただきました。一例ですが、製造ではカップ詰めの際に豆をこぼすなど自分の不器用さを認識しましたし、納品の際には「売れないので商品を引き上げてほしい」と言われたこともありました。商品を作ること、スーパーマーケットで売ること、すなわち社会と繋がるということは、見たくなかった自分の今置かれている現実を知ることかもしれません。忙しくても職員や利用者を焦らせるのではなく、ゆっくり丁寧に作業に携わっていただくこと、お客様にはタレやからし、パッケージを変更する等工夫を加える一方、広報を展開して興味を持ってもらうことに心がけました。

この経験のなかで、これらの工夫を通じ何よりも自分たちが楽しむことで、より良い支援や商品づくり、事業所運営ができるのかなと感じることができました。

納豆づくりの長い物語には、時代や障害福祉に対する考え方の変化があったり、いろんなピンチやチャンス、まさに冒険があってそれを乗り越えてみたくなるような夢があります。私の夢は、利用者や職員の**あかり**を**なっとこちゃん**に乗せ、より高い場所で輝かせることです。納豆工房なっとこちゃんはさらに様々な工夫をして、冒険を楽しみながら、どんなに重い障害があっても障害者の「働きたい」を応援し続けていきます。

ありがとうございます おかげさまで１周年の垂れ幕
（現在も掛かっています）

サービス担当者会議を大切にしています

地域支援センター あいあむ

サービス担当者会議とは、年に一度（施設入所の方は三年に一度）の障がい福祉サービス受給者証の更新の際に、ご本人・その関係者や事業者等が集まり、ご本人の希望や困りごとを伺ったり、サービスの確認を行う、**本人応援会議**です。

いろいろな話をしながら、ご本人にとって一番好ましい暮らしとは何かを考えていきます。

あいあむはこの会議の重要性を理解し、大切にしています。

○保護者としては

実際に支援者が顔を合わせて集まって話すことで、たくさんの方に応援支援してもらっているんだとうれしく、安心しました。

○相談員としては

普段、なかなか顔を合わせて確認できない利用者さんの様子を、就労先や居宅介護のヘルパーさん、行政の職員さんと一緒に現状を共有して、支援方法の工夫につなげることができ、ご本人の希望どおりの暮らしを提供できるよう頑張っています。

メンバー増員で手厚い相談支援を･･･

高砂市基幹相談支援センターみんと

昨年は相談件数が月 400 件を超え、基幹相談支援センターが市民の皆様に届くようになったからだと喜んでいます。

多様化するご相談にお応えするために、２人体制から４人体制となり、一部業務をつぼみ棟へ移転､今まで以上に手厚い相談支援をさせていただきます。（by越田）

今年度から基幹相談支援センターと地域支援センターあいあむとの兼務で仕事をさせてもらっています。新しい環境で成長し続けられるよう励みます。よろしくお願いします。（by藤田）

これまで 20 年間、あかりの家で生活支援員として勤務し、今年度から基幹相談支援センターの相談員として働いています。これまでの直接支援で得た経験と知識をフル稼働しながら、しっかり、丁寧を大切にして頑張りたいと思っています。（by 岸本）

相談支援専門員として約 14 年、たくさんの方に助けていただきました。今年度から基幹相談支援センターと地域支援センターあいあむとの兼務となり、ご本人中心の支援を大切にし、暮らしやすい地域を作っていけるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（by 石井）

児童の事例 ～相談をとおして～

ひょうご発達障害者支援センター クローバー

発達障害もしくは発達障害の疑いがある人の相談が年間約 1,300 件寄せられます。児童の相談では「発達障害かどうか」「園や学校での不適応行動がある」「家庭での関わり方」といった相談が見られます。この度は、幼児期、児童期の大きなテーマでもある「就学」「学校適応」に向けて支援を行った例です。

＜概　要＞

（生育歴）

出生時2905g、生後黄疸がひどく母乳を与えることが出来なかった。運動面では特に大きな遅れは見られなかった。人見知りをしたり、母親がいなくなるとその後を追いかけるような愛着行動はハイハイの頃より見られていたとのこと。ただし人の多い場所や大きな音の出る場所では激しく泣いたり母親にしがみついて離れることが出来なかった。2歳ごろより母親自身そういった様子に疑問を抱かれ乳幼児健診時に相談、以降定期的に発達相談にかかられる。3歳になり保育園に入園すると、登園渋って泣き続けたり、活動に参加できず固まってしまうなどの難しさが目立つようになった。

（検査結果）

WISC-Ⅳ（X+1年7月）

FSIQ:88、VCI:91（類似6　単語11　理解9）、PRI:80（積木10　絵の概念7　行列推理7）、WMI：91（数唱10 語音整列7）、PSI：102（符号11 記号さがし10）

＜支援経過＞※「」は本人や母親の言葉、＜＞は支援員の言葉

母親が居住地保健センターにて、登園渋りの対応が難しいが園の理解が得られず困られていること、今後の就学に向けて不安に感じておられたため、当センターに紹介、相談開始となる。

初回相談で母親は特に、所属園とのやり取りがうまくいかなかったことを述べられる。Aは見通しを持てない状況や新しいことをすることが苦手であったため、園でうまくいかないことがあると家庭で荒れることが多かった。母親はその対応に苦慮されることが多く、そのため母親が園に対して『こういったかかわりをお願いしたい』と頼むと『それはできない』と受け入れられず、受け入れてもらえてもその後に変化が見られないことが続いていた。また園に迎えに行くとよく園からは『A君は今日はこれができなかった』といった報告が続いたため、母親も集団活動の日などにAを休ませたが、そのことにも園より『お母さんがA君にストップかけてるんやで！』と言われた。これらの経緯を母親は不満げに語られ、最後に『理解がないままでこの3年間難しかったです』と疲れ切った様子で話される様子が印象的であった。

これらの経緯があり小学校に上がってからも同様にAの特徴を理解してもらえるのかとも母親は不安に感じておられたため、相談員よりAの特徴を理解していきながら、就学やその後の適応に向けた相談を行っていくことを提案した。

X+1年1～3月：入学に向けた準備

母親と共に来談したAははじめは緊張していたが、相談員がAの持ってきたスケッチブックの絵（中にはAの考えた街などが描かれている）に対して質問をしたりしていると緊張がほぐれていくようであった。母親からはクリスマス会の練習や体操教室の日にも登園を渋っていることがあったことが報告される。話の様子からAの特徴として＜自分のやることがわかり、納得できれば自ら動けるところもあるように思う。そのためには事前にAにわかりやすく説明したり、その場を下見するなどの“仕込み”があってもよいかも＞と伝える。そのため就学に向けた準備として①サポートブックの作成、②入学までに学校の見学をしてもらうことを提案した。

①サポートブックの作成ではまず母親にサポートブックの紹介を行い、その内容について母親と検討を行った。母親自身が家庭で内容をよく考えてこられたため、それを活かしつつ書き加えたほうが良い点や表現について相談を行った。②入学前の見学では入学までに学校を知ってもらうことでのイメージを持ってもらうという狙いを母親と共有をした。母親はAを連れて学校の見学会に参加され、学校の厚意により入学式のリハーサルを担任交えて行うことが出来た。

X+1年4～8月：学校適応に向けた調整

入学式は朝に渋ることはあったが、事前にリハーサルを行ったことやその時の担任が横についてくれたことで参加することができ、学校が柔軟な対応をとってくれたことにも母親はとても安心された様子であった。

入学後は登校は出来ていたが課題として普通級との交流がない状態で、学校も給食を支援級まで持ってきてもらい、それを食べて帰ってしまうという状況があった。母親は『普通級にチャレンジさせたいけどどこまで押し出してよいか迷ってしまう』と話される。当分は現状維持でよいことを伝えながらも支援の方向として普通級に関わる時間を増やしていくこと、学校で過ごす時間が増えることを目標に相談を行うこととした。

またこの時期には母親も交え学校との情報の共有を行った。Aへの関わり方について①行う活動の内容を事前に知らせる、②Aが取り組めそうな活動を選択肢に挙げながら選ばせ取り組ませていく、③スモールステップで取り組んでいく、という方針の確認を行った。担任とはAに事前にやることの内容をわかりやすい言葉で伝え、【やる・やらない】ではなくいろいろと選択肢を示してAに決めさせる（嫌がるようなら少し譲歩した案を示す）、スモールステップでできることを増やしていく、ということでのかかわりをお願いした。

担任は早速Aに対し、給食の時間などにこのような関りを展開してくださった。それまでの「教室の前までいくか行かないか」という交渉では「行かない！」と終わっていたが、「それじゃあ途中の廊下のところまでだったらどう？」と妥協点を探るような声掛けを続けていただき、慣れたら少しずつ教室に近づくということを繰り返していかれた。結果夏休みに入る前にはAは給食を取りに自分で普通級まで行くことが出来るようになった。このころ家でも学校の話をすることが増えており、Aが主体的に学校生活を送れるようになってきている様子が伺えた。

X+1年9～X+2年1月：学校での活動の広がり

運動会や音楽会などの行事練習が始まったことで、「やりたくない！」と家に帰ってから怒ることが増えたが、学校では楽しそうに活動に参加しているとの報告があった。家庭ではAの「イヤだ！」に母親が丁寧に付き合われることで、親子共々疲弊してしまう傾向もあったため、相談員より＜イヤということは多いと思うが、学校の中で楽しい時間もあるように感じる。家庭での「イヤ！」は程々に受け止めることも大事＞と伝える。

結果として本番に参加することが出来たが、練習に参加できたことで他児と関わる機会が増え、Aも「（支援級で過ごしても）友達が増えない」「普通級の方が授業が面白そう！」「給食普通級で食べてみようかな」など、普通級に気持ちが向いてきている様であった。学校への慣れも見られたことから登校の時間を少しずつ伸ばしていくこととなった。年末にはAより「普通級で過ごしてみようかな」との話があったため、担任と母親で話し合い普通級に合流させてみたところ、それ以降問題なく参加できている。また下校の時間も給食を食べて帰っていたところから、5時間目の授業が終わり帰るというところまで出来るようになった。母親はその変化を感じ取られ相談の中では＜4～5月ごろA君ができないって困っていたことどれくらい残っていますか？＞と聞いたときに『残ってないですね。入ってからのこの時間で環境が整うだけでこんなに成長するんだって思いました。』と、しみじみと話されていた。

＜結　果＞

Aの生活は現在では給食以外の時間を普通級で過ごし、参加の難しかった体育や音楽の授業にも参加することができ、その中で賞賛を得る機会もできている。家庭では学校の不満を述べたりすることもあるが「それも少なくなってきた」「家で泣くことも減った」と母親は話されている。少しずつ学校への適応が進んだことにより母親の中でもかかわりのコツがつかめ、学校の担任やクローバーとつながったことで安定を感じられているとのことであった。登校時に車を降りてから教室まで母親に抱っこを求めることが続いているため、今後はその対策の検討を行うこととなっている。

＜考　察＞

本事例は発達障害児の学校適応においてうまくいったケースであるが、その大半はAが持っていた力とそれを引き出せる家庭・学校という土台によって成された部分が大きいように思う。クローバーでの支援もAの見立てとその援助の方法の検討が大半であったが、副題として母親の不安の扱いについてそれを受け止め理解しながら、具体的な助言を心掛けるようにした。そのようなかかわりによって母親の不安がすべてが解消されないとしても『困っても相談すればなんとかなる』という後ろ盾となり、結果としてAの生活の充実に貢献出来たのではないかと感じている。今後もその態度を維持しながら相談を継続したいと思う。

あかりだより No.32　2022 年 8 月

健康を考えた 美味しい食事を提供します

あかりの家 厨房

現在、２名の管理栄養士を含む５名の厨房職員が、利用者さん個々に合わせ、摂取（提供）カロリーや食事形態を決めて、美味しい食事を提供しています。

近年では利用者の高齢化を見据えて、【食事摂取基準 2020】に基き、たんぱく質を多く摂取できるように献立を作成したり、利用者さん共通課題の便秘に対する取り組みとして、食物繊維の多い食材を積極的に取り入れた献立の作成や、腸の動きを促進する効果のあるオリーブ油をお汁に混ぜるなど、医務と連携しながら行っています。

利用者さんが怪我したり病気になったりしたときには、看護師さんと相談しながら、管理栄養士が利用者さんのケアのために、食べやすく、栄養があり、美味しい食事を考えて、利用者の回復に尽力しています。

私たち５人で美味しい食事を作っています

利用者さんの健康状態や、好み、諸事情を考えて、他の部署とも相談しながら、それぞれに合った食事を提供できるように頑張っています。

それでも１番に考えるのは美味しいこと。プライベートで食べたメニューについて話しながら、利用者さんが食べやすくて、美味しく食べてもらえるメニューを考えています。

利用者食事振り分け表の作成と活用

右上の利用者食事振り分け表を作成、日常の配膳で活用しています。

利用者食事振り分け表には、ご飯の量と3食分のエネルギー毎に利用者の名前が記載されていて、人数が表記されています。例えば、110gのご飯の重さ（3食分のご飯のエネルギー1,451kcal）は1階フロアだと誰と誰で何人と、ご飯をよそうときに分かるわけです。

他にも、おかずは一口大にするとか、魚は骨取りをする、ご飯は軟飯がいい、誰がどんなアレルギーがあるか、牛乳の増量、メインのおかずの量まで、細かく指示してあります。基本、陶器の食器を使用していますが、プラスチック食器を使用する利用者も記載してあります。とろみをつけるなど、指示が複雑な場合は、厨房から提供される場合もあります。

利用者食事振り分け表

110g 1451kcal	1F		
	2F		8人
	ショート		2人
140g 1651kcal	1F		
	2F		2人
170g 1750kcal	1F		
	2F		9人
	友愛		1人
200g 1950kcal	1F		
	2F	のところは利用者の名前が記載されています	11人
	ショート		1人
230g 2051kcal	1F		
	2F		10人
	友愛		3人
一口	1F		
	2F		11人
	ショート		1人
骨取り	1F		
	友愛		
	2F		25人
	ショート		2人
個別対応 厨房から	1F	200g・軟飯・軟菜食・小さめ一口・おかずトロミあり	
		170g・軟飯・小さめ一口・おかずトロミあり	
		110g・軟飯・軟菜食・小さめ一口・おかず1/2	
アレルギー	1F	小麦・ゴマ・キウィ・ナッツ類	
	2F	エビ・カニアレルギー	
	ショート	ゆで卵	
		柑橘類(みかんのみOK)・納豆	
	児童食	ご飯110g　おかず2/3	病人食 指示通り
軟飯			
プラ食器			
牛乳増量			
メイン2/3			
メイン増量			

■は一口

美味しい食事ができあがっていきます（厨房作業風景）

基準食

おかずを一口大にした食事

おかずにトロミをつけた食事

特別メニュー

月に1回か2回、ひな祭りや七夕、クリスマスなどの年間行事や、季節を感じさせる料理を特別メニューとして提供します。

この時は厨房の職員5人全員がいつも以上に思いきり腕を振るって、とても美味しい食事が振る舞われます。

６月の特別メニューは・・・
エスニック風で纏めた
ピラフ・生春巻き・スープ・デザート

病人食メニュー

お医者さんから塩分や油分を控えるようにと言われた場合は、その利用者にだけ塩分や油分の控えられた食事が特別食として提供されます。利用者の症状により、調理や食事面で工夫できないか考えた食事が提供されています。

咀嚼や嚥下の力が弱かったり、えずきが多発する利用者には、誤嚥を防ぐために、水分にとろみをつけ、食事を全てミキサーでペースト状にしたものが提供されます。

蔵出しギャラリー

倉庫に眠っていた利用者の過去の作品。どれも秀作です。

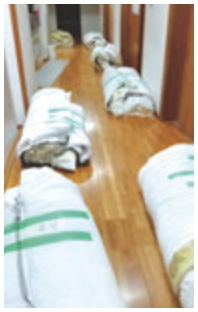
緊急避難 まさか！裏山で大火災

障害者支援施設 あかりの家

令和４年２月９日午後４時すぎ、あかりの家の裏山で火災が発生しました。
消防等からの避難指示を待ちましたが、午後７時半時点でも火の勢いはおさまらないため、施設創設以来初めて避難することを決定しました。
法人の職員の協力も仰ぎ、35名の職員が協力、その夜はワークホーム高砂と友愛の家へ避難、一夜を過ごすことになりました。利用者は取り乱すことなく就寝、翌朝にはあかりの家に戻って来ることができました。利用者の成長を改めて感じた機会でありました。
今回の貴重な体験を、今後の災害時の避難対策に必ず活かしていきたいと考えています。

激動の一夜 －緊急避難の動き－

9日 16:40 山火事の第一報が届く
17:00 高砂市障害福祉課から電話
17:50 警察、自治会長が心配していただき 来園される
今後について質問、確認
○避難する場合、指定された避難所でなくてもよいか？
→ＹＥＳ－安否確認のため、連絡先を伝達しておく
○消火活動の見通し等を確認→山頂付近は難しい…
18:10 避難に向けての諸準備・対策本部を設置
利用者はパジャマに着替えず、ジャンパーを着て待機
→普段とは違う光景ですが、利用者の動揺は少ない
19:10 連絡を受け、勤務外の職員が集まってくる
19:40 避難準備が本格化
○薬などの必需品の準備
○利用者それぞれの枕、掛け布団などを敷き布団でくるみ、名前を記載する
○利用者、荷物が離ればなれにならないよう配車計画をたて、綿密に確認
20:30 友愛の家へ避難開始（10名）
21:00 ワークホーム高砂へ避難開始（30名）
22:00 避難利用者、ほぼ入眠したことの報告受ける
10日 8:00 避難先で朝食、投薬
9:00 順番にあかりの家へ帰園
12:00 布団の回収など、後始末全て完了



当日の夜勤職員は・・・

夜勤者だった私は上司の指示を待ちながら「利用者とこの一晩をどう乗り切るかを考えました」ワークホームへ避難することが決まり、移動すると「利用者がどうすれば寝ることができるか？」を応援に来ていた職員皆が考えてそれぞれが行動していました。
就寝する環境が大きく変わり、寝づらい利用者もいましたが、全員が寝ることができました。翌朝の動きも大きな混乱なく終えて、山火事の状況をみながら午前中にはあかりの家に帰りました。
当日の成功したポイントは利用者への説明はもちろんのこと「職員間のコミュニケーション」と「事前の想定・事前準備」でした。あかりの家では、対人的支援や人付き合いを大切にしながら支援をしています。過去の親子旅行での睡眠状況の傾向を頭で描きながら対応しました。非日常という状況を乗り切るには、日常の積み重ねが大事ということが綺麗ごとではなく、本当によくわかりました。普段からの療育的な支援や成果の積み重ねが、こういった場面では本当に活きました。

一方 受け入れ先では・・・

○友愛の家

友愛の家に避難された10名に対し、友愛の家宿直職員と、あかりの家の１階の女性職員で、１階リビングに布団を敷き対応しました。
６名の利用者さんが入所されていますが、避難されてきた方が全員同じ棟の女性ということもあり、大きな混乱もなく就寝されました。

○ワークホーム高砂

多くの法人職員の応援を受け、避難を受け入れたが、食堂をはじめ、更衣室の前にも利用者が寝ている状態であった。
翌朝、どうすればワークホーム高砂の利用者が混乱なくクリーニング作業を開始することができるのかを考えた。結果、混乱は全くないまま平常どおり９時には作業を開始することができた。

大改革！！６日稼働から５日稼働へ

ワークホーム高砂

現在、クリーニング作業は、月曜日から土曜日まで、週６日稼働で作業を行っていますが、利用者も職員も週休２日のため、どうしても１日当たりの作業人数が減ってしまいます。お客様に迷惑をかけずに、週５日稼働で作業できないか、協力会社のゴトウ･アズ･プランニングと協議しています。

４月から、５日稼働と６日稼働を交互にして、テストを行っています。５日稼働でも作業生産量を維持できるよう、試行錯誤しながら協議を重ね取り組んでいる状況です。

週５日稼働になれば、１日当たりの利用者数と職員数を集約的に配置することができ、作業支援を充実させることができることはもちろん、今まで時間を取るのが難しかった、職員会議や学習会など職員のスキルアップにも力を入れていきたいと考えています。

来年度は完全週５日稼働が実現できるよう、目標に掲げ頑張っていきます。

週６日稼働と週５日稼働の作業状況の違い

	週６日稼働 －A･B、２グループ分けて作業－			週５日稼働	
		Aグループ	Bグループ		全利用者
月曜日	稼働日（人数半数）	作　業	公休日	稼働日	作　業
火曜日	稼働日	作　業	作　業	稼働日	作　業
水曜日	稼働日	作　業	作　業	稼働日	作　業
木曜日	稼働日	作　業	作　業	稼働日	作　業
金曜日	稼働日	作　業	作　業	稼働日	作　業
土曜日	稼働日（人数半数）	公休日	作　業		公休日
日曜日		公休日	公休日		公休日

週５日稼働のメリット

- ○ 利用者、職員が分散することなく作業、支援にあたることができる
- ○ 土曜日、日曜日を使って職員会議、学習会など職員の支援向上に繋がる日を設けることができる
- ○ 工場メンテナンスなど、これまで協力会社に任せていたが、職員も一緒に行うことができる
- ○ 土日を公休にすることにより、現在のニーズに合い、新規利用者獲得が行いやすくなる
- ○ 事業所説明会などの対外的な活動を定期的に行っていきやすくなり、求人も取り組みやすくなる

生活介護利用者の送迎開始

今年度から、生活介護の利用者の送迎サービスを開始しました。現在は東加古川方面の利用者２名と、あかりの家の利用者１名の計３名の送迎を行っていますが、今後、送迎ルートを拡大、充実させていく予定です。

保護者の方から「非常に助かっています」「朝の支度に余裕ができ助かっています」などのお声をいただいています。

終わった～ さぁ、帰ろう～

自動車の乗り降りも慣れたもの・・・
安全運転でお願いします

「ただいま」「おかえり」

３つのグループホーム

友愛の家 開設6年目 定員（現員）6名
開設５周年 これまで と これから 挑戦していく

法人開設30周年記念事業の一環として開設した、自閉症専用グループホーム 友愛の家が昨年５周年を迎えることができました。

「生活の基本は日常」をスローガンに、掃除や自炊、ゴミ出しまで、利用者自身で取り組んで、その腕前もあがっています。「休日の過ごし方」もいろいろ工夫、挑戦して実施してきました。

これからも様々なことに挑戦していきたいと思っています。

掃除担当

ゴミ出し
マナーは大切

料理の腕もドンドン上達
自慢のホルモンうどんは大したもの

祝日企画ーイチゴ狩りー

オリーブの家 開設8年目 定員（現員）7名
活動に参加して 地域の中で生活しているを実感

オリーブの家がある島町内会では、定期的に公園の草ひきや溝掃除、消防訓練に取り組まれています。オリーブの家の入居メンバーと職員も地域の方々の輪の中に入り、公園の草抜きや消防訓練などに参加しています。

地域の方々から「今回も参加していただいてありがとうございます」と声を掛けていただいて、地域の中で生活しているという、グループホームの本来の目的を果たせていると実感する機会になっています。

溝掃除の後 消防訓練

公園の草ひき

希望山荘日笠 法人運営20年目 定員（現員）10名
コロナ禍の中 休日の過ごし方を工夫して 楽しく

コロナ禍が続く中、10名の利用者の方々全員で何か一緒にという活動は難しいのが現実です。そんな中、利用者の方々の生活に潤いが出て、楽しいと思える活動の一例を紹介します。

○ 各々セルフレジ支払いをチャレンジしてお弁当を購入、のんびり海を眺めながら食べました。
○ 希望山荘日笠の遅出スタッフである、チェント・クオーレ・ハリマの吉永選手の応援に行ってきました。
○ 朝から飾りつけを作って、部屋いっぱいに飾り、誕生日会を催しました。

兵庫県強度行動障害地域生活支援事業
－障害者支援施設あかりの家における支援から－

2019 年度に創設されたこの事業、現在までに４人の方を受けさせていただきました。

１．あかりの家での実習に参加して

株式会社 ファーストケア　代表取締役 石河　宏明氏

強度行動障害地域生活支援事業（以下強度事業）では、令和２年度にＡさんの実習に参加、令和３年度のＢさんの事業後の地域生活を支援するヘルパー事業所として、現在両者に関わらせていただいています。

（1）Ａさん強度実習に参加して

強度事業前のＡさんは、自宅内では家中の食べ物を持ち込み自室で食べては嘔吐する、支援中は強い筋緊張から衣類を破く、力みからの自傷行為・他害行為等があり、ご本人、ご家族、周りの支援者達も困り、またご家族の緊急時にAさんを受け入れてもらえるショートステイ先が見つからないこともありました。

私が強度事業の実習に参加する時には、あかりの家の強度チームの方々が2か月かけてAさんの行動障害に対してご支援されており、落ち着いた環境のもと課題に取り組む事ができ、力みが減り、自傷も他害も軽減されていました。

実習に参加させていただき、力みの前の表情への気づきや、言葉かけ、向き合ったわかりやすい言葉かけなどの実習での多くの学びが、強度事業後もAさんが他者との関わりの中で地域生活を営むことができる土台作りになっていると実感できました。地域に戻ってからのAさんは、山登りや外食も一緒に行き、落ち着いて食事する事ができています。また家の中での生活は環境に配慮する事で、食べ物を勝手に食べる事もなくなり食事・睡眠・排泄も安定している様子で、強度事業以前には考える事もできなかった生活を日々過ごされています。

（2）Bさん強度事業後の支援

Bさんはサービスの開始前に、地域の関係事業所、あかりの家の職員とでサービス担当者会議を開催され、同席する機会を得ました。強度事業を受けるに至った経緯や強度事業で取り組んだ事等の情報共有をした後、強度事業中の地域支援（通所施設から自宅への余暇支援）の見学をさせていただきました。

最初はBさんとの関係の構築を第一に考え、また多動性の強い方との情報がありましたので、強度事業で取り組んでおられた散歩中の歩行ペースのコントロールを行い、活動の見通しを立てながら、色々なこだわりに支配されず落ち着いた生活リズムの中で、穏やかに過ごせるように支援を開始しました。

日中通所施設とその後の余暇時間の生活は、早い時期に安定して過ごせるようになっていましたが、ご両親との関係性が徐々に崩れると自宅での状態が悪化してきているとご相談を受け、一日の生活リズムを詳細に教えていただき、強度実習で学んだ事をふまえた上で、私達の居宅介護等事業所として行えることを提案させていただきました。

その結果、朝の時間帯に支援に入らせていただくようになり、現在はヘルパーが来ない日もご本人が自発的に掃除等を行い、両親に感謝される存在になると共に、何をしてよいかわからない不安な時間を作らないことで見通しを立てた生活になり、朝の通所も安定しています。

私は、今まで１０数年現場で色々な利用者様の支援をさせていただきましたが、今回の強度実習を受け、あかりの家の皆様との支援の場を共にさせていただき、そこでの多くの支援技術、様々な対応方法を学び、またそれらの事を利用者様に還元できる事を非常に嬉しく思います。
実習に参加して何より凄いと思ったことは強度チームの皆さんにとどまらず、あかりの家という組織が「様々なご利用者、様々な支援者」がいるにも関わらず「支援の土台」は一緒で「1人1人の支援者の個性も生かしながら、チームとして利用者さん個々の目標に取り組んでいる」と感じた事が、私にとって衝撃であり、多面的、多角的な支援の可能性を強く感じました。

私たちの事業所も、あかりの家のような「揺るがない土台のもと、支援者の個性を生かしたチーム支援」に取り組みたいと思います。

２．実践発表

－第34回 全日本自閉症支援者協議会　滋賀WEB大会－

2021（令和3）年12月９日、第１分科会「強度行動障害の支援」で実践発表させていただきました。

助言者の鳥取大学大学院 医学系研究科 井上雅彦教授から、「始発点と着地点が明確」や、取り組みの視点の１つの<利用初日を成功させてあげる>について「環境変化はネガティブさはありつつ、リセットできるチャンス」などのコメントをいただきました。

また「障害特性に基づいた支援から、本人の行動特性に合わせた支援へ」など、参考になる点も多く、今後につながる実践発表の機会となりました。

◆利用申請 受付中

【募集内容】
○令和４年度 第３期
事業利用：令和４年12月11日～令和５年３月11日（予定）
募集期間：令和４年６月１日～９月30日
○令和５年度 第１期
事業利用：令和５年５月10日頃～令和５年８月９日頃
募集期間；令和４年10月１日～令和５年１月31日

【お申込先】　お住まいの市町の障害福祉課

【対象者】　18歳以上で行動関連項目判定基準で10点以上の障害者
原則、在宅障害者（所属：通所施設など）

【申請者】　家族
※所属施設の職員のあかりの家実習があるため、所属施設の了解を得てください

あかりの家イロイロ情報局

あかりの家では、働きやすい職場作りに取り組んでいます！

○ 育児・介護休暇を有給と定め、取得を推進しています。
○ 年次有給休暇の取得率 50%を目指して取り組んでいます。

くるみんマーク取得

くるみんマークとは、仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業を認定する制度です。基準を満たした企業に厚生労働大臣から与えられるマークで、あかりの家は、2015 年 4 月 15 日に認定されました。

障害児等療育支援事業

在宅障害児（者）及び家族を対象とした相談・療育を行う事業です。当事業では専属のスタッフがご相談をお受けします。ご相談をお受けした後に療育担当職員が以下のような支援をいたします。

Ⅰ：お宅にお伺いしてご相談をお受けします。**（在宅支援訪問療育等指導事業）**
Ⅱ：あかりの家に来ていただいて、ご相談をお受けします。**（在宅支援外来療育指導事業）**
Ⅲ：通所施設、学校、保健所などにお伺いしてご相談をお受けします。**（施設支援一般指導事業）**

短期入所事業・日中一時支援事業

行動上の問題や、家庭のご都合などで、一時的に施設をご利用いただけます。昨年度は、自閉症の方を中心に延べ 860 日の利用がありました。

ナイスハートバザール　あかりの家 さをり班

イオン高砂の協力を得て、オリジナリティ溢れる商品を販売いたします。是非とも足をお運びください。

日時：12 月 10 日（土）・11 日（日）　場所：イオン高砂 セントラルコート

納豆工房 なっとこちゃん 福祉アンテナショップ

納豆工房 なっとこちゃん では、しっかりとした衛生管理のもと、手づくり納豆を製造しています。
佐用もち大豆使用の定番に、新しくわさび味が加わり、7 種類となりました。是非ご賞味ください。
同作業所内にある 福祉アンテナショップ では、なっとこちゃんの直販を行うとともに、あかりの家のさをり織りをはじめ、他の障害福祉サービス事業所の利用者さんが作られた製品も多数販売しています。
是非お立ち寄りください。

社会福祉法人 あかりの家 自閉症総合援助センター

- 自閉症成人入所施設 あかりの家
- 地域支援センター あいあむ
- 多機能型通所施設 ワークホーム高砂 納豆工房 なっとこちゃん
- グループホーム 希望山荘日笠 オリーブの家 友愛の家
- ひょうご発達障害者支援センター クローバー
- 児童療育支援センター あかり 児童デイふたば 児童デイつぼみ
- 診療所（未）

各事業の有機的な連携と関係団体・関係機関・関係者との協働

生活の場 ／ 働く場 ／ 就労支援 ／ 療育支援 ／ 相談支援 ／ 地域生活支援 ／ 地域作り ／ 支援者養成 ／ 医療診断

利用者状況（R３年度）

（令和4年4月1日現在）

あかりの家
　施設入所 定員 40名、現員 40名（男 31名、女 9名）
　生活介護 定員 40名、現員 51名（男 41名、女 10名）
ワークホーム　定員 40名、現員 37名（男 30名、女 7名）
納豆工房 なっとこちゃん　定員 10名、現員 7名（男 4名女 3名）
グループホーム　定員 23名、現員 22名（男 17名女 5名）

1. 出身別利用状況
　高砂市（30）加古川市（20）播磨町（8）
　姫路市（13）神戸市（10）尼崎市（2）
　小野市（1）加東市（1）神河町（1）県外（3）
2. 年齢
　あかりの家 最年長 67歳　最年少 26歳
　　平均 施設入所 50歳 生活介護 48歳
　ワークホーム 最年長 58歳　最年少 18歳
　　平均 就労B型 35歳 生活介護 38歳
　納豆工房 なっとこちゃん
　　最年長 52歳　最年少 36歳
　　平均 44歳
　グループホーム 最年長 62歳　最年少 26歳
　　平均 44歳

社会福祉法人 あかりの家
〒671-0122
兵庫県高砂市北浜町北脇504番1　TEL（079）254-3292　FAX（079）254-3403
URL http://akarinoie.org/

障害者支援施設 自閉症成人施設 あかりの家
〒671-0122　高砂市北浜町北脇５０４番１　TEL（079）254-3292　FAX（079）254-3403
E-mail akarinoie@nifty.com

多機能型事業所（就労B型・生活介護） ワークホーム高砂
〒676-0081　高砂市伊保町中筋１３３１　TEL（079）449-0701　FAX（079）449-4111
E-mail workhome@nifty.com

多機能型事業所（就労B型・生活介護） 納豆工房 なっとこちゃん
〒676-0082　高砂市曽根町１７８０－１　TEL（079）448-5400　FAX（079）448-5111
URL https://nattokochan.akarinoie.org/　E-mail natto_koubou@akarinoie.org

ひょうご発達障害者支援センター クローバー
〒671-0122　高砂市北浜町北脇519　TEL（079）254-3601　FAX（079）254-3403
URL http://auc-clover.a.la9.jp/　E-mail auc.clover@nifty.com

児童デイサービス ふたば
〒671-0122　高砂市北浜町北脇５０４番１　TEL（079）254-3292　FAX（079）254-3403

児童デイサービス つぼみ
〒671-0123　高砂市北浜町西浜1208-43　TEL（079）263-8233　FAX（079）253-8234

地域支援センター あいあむ
〒671-0122　高砂市北浜町北脇５０４番１　TEL（079）280-3740　FAX（079）254-3403
E-mail aiamu@mbr.nifty.com

グループホーム 希望山荘日笠
〒676-0082　高砂市曽根町１７０４－４　TEL（079）447-3136　FAX（079）447-3136

グループホーム オリーブの家
〒676-0822　高砂市阿弥陀町魚橋３７５－16　TEL（079）447-3700　FAX（079）447-3700

グループホーム 友愛の家
〒676-0082　高砂市曽根町１７０４－５　TEL（079）447-1800　FAX（079）447-1800